

藤本壮介の建築：原初・未来・森

2025年7月2日(水)ー11月9日(日) 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

森美術館は、2025年7月2日(水)から11月9日(日)まで、「藤本壮介の建築：原初・未来・森」を開催します。

藤本壮介(1971年、北海道生まれ)は東京とパリ、深圳に設計事務所を構え、個人住宅から大学、商業施設、ホテル、複合施設まで、世界各地でさまざまなプロジェクトを展開しています。2000年の《青森県立美術館設計競技案》で注目を集めたのち、《武蔵野美術大学美術館・図書館》(2010年、東京)、《サーペンタイン・ギャラリー・パビリオン2013》(ロンドン)、近年では集合住宅《ラルブル・ブラン(白い樹)》(2019年、フランス、モンペリエ)や音楽複合施設《ハンガリー音楽の家》(2021年、ブダペスト)などのプロジェクトを次々と完成させ、高い評価を得てきました。現在は「2025年大阪・関西万博」の会場デザインプロデューサーを務めるなど、いま、最も注目される日本の建築家の一人です。

本展は、藤本にとって初の大規模個展です。活動初期から世界各地で現在進行中のプロジェクトまで網羅的に紹介し、四半世紀にわたる歩みや建築的特徴、思想を概観します。展示では、模型や設計図面、竣工写真に加え、インスタレーションや空間を体験できる大型模型、プロトタイプ(試作モデル)なども含まれ、建築に携わる人だけでなく、だれもが藤本建築のエッセンスを体感できる、現代美術館ならではの展覧会となります。さらに、藤本による未来の都市像の提案を通し、建築の存在意義や可能性についての考察も試みます。

環境への配慮、人と人との変わりゆく関係性、分断されたコミュニティをつなぐ機能、テクノロジーの発展に影響される生活など、今日、建築や都市には従来以上の役割を担うことが求められています。そのような時代に、建築は私たちの暮らしをどう変えうるのか。藤本の実践をとおして、みなさんとともに考えます。



《ラルブル・ブラン(白い樹)》
2019年
フランス、モンペリエ
撮影：イワン・バーン



《ハンガリー音楽の家》(内観)
2021年
ブダペスト
撮影：イワン・バーン

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、伊原
Tel: 070-4303-7219(日比) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

藤本壮介 メッセージ

今回の個展は、いわゆる回顧展というより、現在進行形で、むしろ未来を向いているものです。これまでの集大成であると同時に、これからの方向性を模索する展覧会になると感じています。建築家とは、人と人、人と自然の関係を紡ぐ「場」を作る仕事でもあり、それは私にとっては自然と人工が溶け合う「未来の森」のような場所だといえるかもしれません。さまざまな価値観がバラバラであることの良さや寂しさが行き交うこの時代に、そこに豊かな「つながり」を作り出せないかと模索しています。「こんな建物や街で暮らしたら、世界はどう見えてくるのだろう」とみなさんの想像と希望が膨らみ、未来をポジティブに考えるきっかけとなれば嬉しいです。

略歴

1971年北海道生まれ。東京大学工学部建築学科卒業後、2000年藤本壮介建築設計事務所を設立。2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞《ラルブル・プラン(白い樹)》に続き、2015、2017、2018年にもヨーロッパ各国の国際設計競技にて最優秀賞を受賞。国内では、「2025年大阪・関西万博」の会場デザインプロデューサーに就任。2024年には《国際センター駅北地区複合施設(仮称、仙台)》の基本設計者に選定される。主なプロジェクトに、《House N》(2008年、大分)、《武蔵野美術大学美術館・図書館》(2010年、東京)、《House NA》(2011年、東京)、《サーペントイン・ギャラリー・パビリオン2013》(ロンドン)、《ラルブル・プラン(白い樹)》(2019年、フランス、モンペリエ)、《白井屋ホテル》(2020年、群馬)、《石巻市複合文化施設》(2021年、宮城)、《ハンガリー音楽の家》(2021年、ブダペスト)など。



撮影：デビッド・ヴィンティナー

開催概要

展覧会名：藤本壮介の建築：原初・未来・森

主催：森美術館

企画：近藤健一(森美術館シニア・キュレーター)、椿 玲子(森美術館キュレーター)

会期：2025年7月2日(水) - 2025年11月9日(日)

会場：森美術館(東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階)

開催時間：10:00-22:00(火曜日のみ17:00まで)

* 入館は閉館時間の30分前まで * 会期中無休 * ただし、9月23日(火)は22:00まで

入館料：

	[平日]		[土・日・休日]	
	当日窓口	オンライン	当日窓口	オンライン
一般	2,300円	2,100円	2,500円	2,300円
学生(高校・大学生)	1,400円	1,300円	1,500円	1,400円
中学生以下	無料			
シニア(65歳以上)	2,000円	1,800円	2,200円	2,000円

- * 事前予約制(日時指定券)を導入しています。専用オンラインサイトから「日時指定券」の購入が可能です。日時指定券の販売開始日は決まり次第ウェブサイトでお知らせします。
- * 当日、日時指定枠に空きがある場合は、事前予約なしでご入館いただけます。
- * 表示料金は消費税込。
- * 本展のチケットで、同時開催プログラムもご鑑賞いただけます。

同時開催：「MAMプロジェクト033：ブルー・ルエイ」ほか

一般のお問い合わせ：Tel: 050-5541-8600(ハローダイヤル) 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、伊原
Tel: 070-4303-7219(日比) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

本展のタイトルについて

北海道・旭川の隣町である自然豊かな東神楽町で育った藤本にとって、北海道の雑木林は原風景です。同様に、東京のような巨大都市の、入り組んだ路地や雑多なものが併存するありようにも、「乱雑さの中にゆるやかな秩序がある」と森の要素を見出しています。小さい枝や葉などによって構成される森も、路地に存在する植木鉢や自転車、看板など小さなものも、ともに「ヒューマンスケール」です。そして森も都市も複層的であり、また、命が生まれ循環する場でもあります。森は人類誕生以前からの原初的な存在ですが、この「森」という概念は藤本の創造における核の1つであり、活動初期から現在まで、さまざまな形で具現化されています。そして藤本はこの概念が未来の建築や社会のモデルとなると考えるのです。本展の副題「原初・未来・森」には、そんな藤本の想いが込められています。



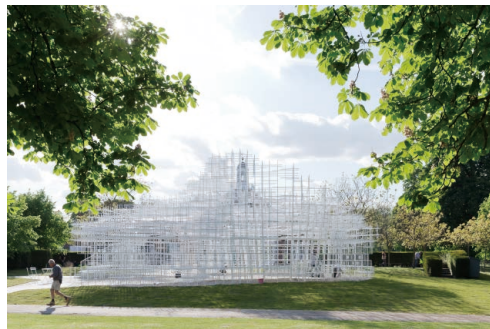
(左)
《深圳博物館新館(深圳改革開放展覽館)》
2027年竣工予定
中国・深圳
©Sou Fujimoto Architects & Donghua Chen Studio

(右)
《明治公園整備・管理運営事業》
2026年竣工予定
福岡

本展のみどころ

■ 初の大規模個展。四半世紀にわたる主要プロジェクトを紹介

無名の新人建築家だった藤本は、2000年の《青森県立美術館設計競技案》で建築家・伊東豊雄などから高い評価を受け2位に選出され、一躍建築界の注目を集めます。その後、「書物の森」をコンセプトに渦巻き状に書架が並ぶ《武蔵野美術大学美術館・図書館》、白色のスチール・パイプを立体格子状に組み合わせたパビリオン《サーペンタイン・ギャラリー・パビリオン2013》、樹木から葉が広がるように大きなバルコニーが多数配置された集合住宅《ラルブル・ブラン(白い樹)》、公園の中の緑に溶け込み自然と建築物との境界を曖昧にする音楽複合施設《ハンガリー音楽の家》などのプロジェクトを次々と手掛けてきました。現在も、「2025年大阪・関西万博」、《国際センター駅北地区複合施設(仮称、仙台)》(2031年竣工予定、宮城)、ヨーロッパでの複合都市計画など、多数のプロジェクトが進行しています。本展では、活動初期から世界各地で現在進行中のプロジェクトまで、四半世紀の活動の歩みを網羅的に紹介します。



(左)
《武蔵野美術大学美術館・図書館》
2010年
東京
撮影：DAICI ANO

(右)
《サーペンタイン・ギャラリー・パビリオン2013》
2013年
ロンドン
撮影：イワン・バーン

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、伊原
Tel: 070-4303-7219(日比) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

■ 従来の建築展の在り方を刷新。現代美術館での建築展の可能性を探求

本展では、これまでの建築展で中心となっていた模型や設計図面、竣工写真だけでなく、藤本が設計した空間を体感できる大型模型、思考の過程を実験的に表現するプロトタイプや、藤本の創作の源である「森」をコンセプトにした新作の大型インスタレーション、映像を投影することで人の動きを可視化する模型、藤本の建築作品が演劇のように対話を行う設定の作品なども展示します。藤本の世界観をより視覚的・聴覚的に体感できる、現代美術館ならではの建築展のあり方を探求します。

■ 「2025年大阪・関西万博」大屋根リングを展示室内の各所で紹介

藤本が会場デザインプロデューサーを務める「2025年大阪・関西万博」の象徴ともいえる、「大屋根リング」のプロジェクトを紹介します。5分の1部分模型や外観写真、構想から竣工までの関連資料のほか、大型インスタレーション《模型の森》に含まれる模型など、展示室内の各所でさまざまな角度からリングのコンセプトに迫ります。



「2025年大阪・関西万博」
2025年竣工予定
© Sou Fujimoto Architects,
© TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS

■ 他のクリエイターや研究者とコラボレーション

《白井屋ホテル》(2020年、群馬)では、自身のプロジェクト内に設置する新作を現代美術作家やデザイナーに依頼し、「2025年大阪・関西万博」でも若手建築家にトイレや休憩場などの設計を依頼するなど、これまで藤本はさまざまなクリエイターと協働を行ってきました。本展でも、倉方俊輔(建築史家、大阪公立大学教授)、幅允孝(ブックディレクター、有限会社バッハ代表)、宮田裕章(データサイエンティスト、慶應義塾大学教授)などとのコラボレーションを行います。



《白井屋ホテル》
2020年
群馬
撮影：田中克昌

本展の構成

■ 模型の森

活動初期から現在計画中のものまで、藤本の全てのプロジェクトを紹介する大型インスタレーション《模型の森》を展示します。300㎡を超える巨大空間に、模型や素材、アイデアの断片であるオブジェなどが無数に、年代順に配置され、1つの「森」として表現されます。1つのプロジェクトが別のプロジェクトに繋がり発展する流れも提示し、藤本建築の全貌を表します。



《模型の森》(展示風景予想図)
© Sou Fujimoto Architects

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、伊原
Tel: 070-4303-7219(日比) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

■ 年表

倉方俊輔(建築史家、大阪公立大学教授)とのコラボレーションにより、藤本の活動の軌跡を総覧する年表を掲示します。プロジェクトだけでなく、藤本の言葉や思想を、建築や社会の事象と並置して見せることで、藤本建築の歴史的文脈も読み解くことができます。《武蔵野美術大学美術館・図書館》、《サーペントライン・ギャラリー・パビリオン2013》、《ラルブル・ブラン(白い樹)》、《ハンガリー音楽の家》など主要作品の写真もあわせて展示します。

■ ブックラウンジ

窓から外の景色が見える開放感のある展示室に、間(あわい)をコンセプトとするブックラウンジを併設。藤本自身の著作だけでなく、本展コラボレーターの幅允孝(ブックディレクター、有限会社バッハ代表)が選書した関連書籍も並び、藤本の思想にゆったりと思いを巡らせることができます。読書に没頭したり、風景を眺めながら小休憩したりと、「本を読む／読まない」の「間」としての空間が出現します。

■ 人が動く模型

《安中環境アートフォーラム》(2004年計画案、群馬)、《エコール・ポリテクニク・ラーニングセンター》(2024年、フランス、サクレー)などの建築模型に、プロジェクターで人の動きを投影します。設計時にシミュレーションされた利用者の動きからは、建築が単体として存在するのではなく周囲との関係性で成立し、1つの空間が内側でもあり外側でもあるという両義性や、道でもあり同時に広場でもあるという場所の性質の多様性など、藤本の空間に対する思想を読み解くことができます。

■ 「2025年大阪・関西万博」大屋根リング

万博会場のシンボルであり、世界最大級の木造建築物となる「大屋根リング」の5分の1部分模型(高さ約5メートル)を展示します。リングがつくる内側と外側、その間の領域や関係性を体験すると同時に、全体像も概観でき、「世界が多様でありながら同時に1つになる」というコンセプトを実感する場となります。また、本作の構想段階から完成に至るまでの資料も展示し、その歩みと議論も振り返ります。



(左・右ともに)
「2025年大阪・関西万博」大屋根リング模型(展示風景予想図)
© Sou Fujimoto Architects

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、伊原
Tel: 070-4303-7219(日比) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

■ 建築同士の対話

《石巻市複合文化施設》(2021年、宮城)、《ハンガリー音楽の家》など、藤本が手掛けた複数の建築作品が擬人化され、それらが会話を交わすという設定の作品。会話を通じ、各作品の特徴や設計された背景、思想を浮かび上がらせてみます。

■ 国際センター駅北地区複合施設(仮称、仙台)

仙台市に建設される、音楽ホールと震災メモリアル拠点となる複合施設(2031年度竣工・開館予定)の大型模型。2024年の公募型プロポーザルで、藤本は「たくさんの/ひとつの響き」をテーマに提案し、基本設計者に選出されました。「バラバラであると同時に1つである/多様なものが響き合う/求心性と拡散性」という藤本の「オープン・サークル」の理念が具現化されるものです。設計や提案に至るプロセスがわかる資料も公開し、プロジェクトの全貌を紹介します。



《国際センター駅北地区複合施設(仮称、仙台)》
2031年竣工予定
宮城
© Sou Fujimoto Architects

最新のプレス画像は、こちらのURLより申請、ダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/soufujimoto/>

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、伊原
Tel: 070-4303-7219(日比) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp